ワークライフバランス検討委員会企画　シンポジウム

多様な働き方を許容する組織の在り方を考える

日時　2023 年 6 月 1 日（木）　18 時～19 時

会場　大阪国際会議場　第 2 会場（10F 会議室 1001-2）

シンポジスト

川瀬和美　東京慈恵会医科大学外科学講座（乳腺内分泌分野）特任教授
伊東宏明　亀田総合病院　小児科主任部長
本多泉　　東京都立多摩総合医療センター　産婦人科医長
立石実　　聖隷浜松病院　心臓血管外科主任医長

ワークライフバラス検討委員会では、4 名の現役外科医・小児科医をシンポジストとして迎えました。いずれも急性期病院の外科医あるいは小児科医として現役でご活躍中です。

川瀬先生には、日本外科学会におけるジェンダー平等の現在地や改善策などについて、また、時間外労働規制の導入によって想定される課題などについてご講演いただく予定です。

伊東先生には、育児休暇（育休）を取得した経験から、男性が育休を取得するために必要な組織の在り方、ご自身の育休取得が周囲に与えた影響などについてご講演いただきます。

本多先生には、急性期産婦人科医療と二人の子の育児を両立しておられる立場から、それを可能にした組織の関わり方についてご講演いただきます。

立石先生は、第 59 回日本人工臓器学会大会において組織内のアンコンシャスバイアスを指摘する発表をされ、大きな反響を呼びました。この発表内容をもとに、組織内の意識改革の必要性についてご講演いただきます。

それぞれのご講演ののち、様々な事情を持つ個人の能力を生かし伸ばす組織の在り方を、シンポジストを交えて議論したいと思います。また、2024 年度より医師の時間外労働が規制されます。医師の働き方が大きく変化する中で、個別の事情に配慮しながらいかに外科医療の質を保ち、後進を育てていくのか、そのヒントを探る機会にできればよいと思います。

※本シンポジウムは外科領域講習の単位が付与されます。